

お気に入りの ひとときを 求めて

宇和島に根付く喫茶店文化。

ご近所さんが集まる憩いの場、

モーニングが美味しいコーヒー店、

夜にはお酒が楽しめる

心地いい音楽が流れるバー喫茶など、

個性豊かなお店が多くあります。

今回はその一部をご紹介します。

雨の多いこの時期

一杯のコーヒーとともに、

自分だけのお気に入りのひとときを

見つけてみてはいかがですか。





Coffee & Music 鈴

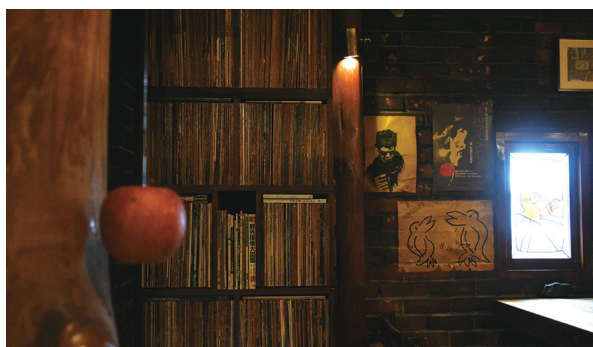
心地よいJAZZの音色と、一期一会を楽しむ大人の社交場

今日も新たな出会いとともに、
その日だけの「セッション」が始まる

昭和50年創業の老舗JAZZ喫茶「鈴」。もともと市外などで働いていた店主の高宮守さんが、同名の喫茶店だった現店舗を譲り受け、自分の店をオープンしました。

店内に入るとレコードから流れる心地よい音楽に包まれ、サイフォンで淹れるコーヒーがさらなる至福へ誘います。高宮さんの豊富

な音楽知識から音楽好きが通う情報交換所でもあり、夜はお酒とともに音楽談議に花が咲きます。店主と客が創り上げるその日だけの空間は、即興演奏が魅力のJAZZそのものの。多くの人の想いが行き交う場所としてあり続ける鈴は、まさに「ココロまじわうトコロ」といえるのではないでしょう





安藤珈琲

創業以来こだわりの自家焙煎、老若男女が集う老舗コーヒー店

それぞれのひとときを過ごしてもらいたい

昭和36年創業の安藤珈琲。自家焙煎豆をネルドリップで淹れたこだわりのコーヒーを提供するほか、モーニングや軽食の提供、手づくりクッキーやコーヒー豆の販売を行っています。店主の安藤哲也さんは、もともと市外に勤めていました。2代目として店を継いだときにお茶菓子が無かったので始めたクッキーは、今では9種類ま

で増え、来店したら必ず買っていくお客さんもいるそうです。外観は歴史を感じる佇まいで、アンティーク家具やカップが並ぶ店内の奥には、庭が見える席もあります。「この席を目指して来店するお客さんも多いです。雨の日も風情があつていいんですよ」と安藤さん。老舗ならではの雰囲気とともに、これからも変わらず、多くの人の憩いの場としてあり続けてほしいと願います。





こだわりの
空間とともに



いつもの日常と
一期一会を求めて



自分だけの
一杯を





エポカ

コーヒーに恋した店主が営む、心温まる異空間

好きだからこそ、続けられる

赤と緑のテントが目を引き「エポカ」。店主の谷口照子さんは、名古屋で働いていたところに喫茶店文化に触れ、コーヒーに魅了されたそうです。仕事の合間を縫ってコーヒーについて勉強し、昭和49年に実家のあった現在の場所に念願の自分の店をオープンしました。店名は3文字でリズムがいいものをと、閃きで決めたそうです。オープン当初はいろいろな意見があったようですが、営業を続けるうちに常連さんどもあつて楽しいと谷口さんは笑顔で話します。

店内は個性的な天井や棚に並ぶ民芸品などで、独特の雰囲気となっています。お客さんがお土産に買ってきてくれたものも多いそう。飾られているドライフラワーは谷口さんの手づくりで、店内

に文字どおり花を添えています。喫茶店に通い詰めた時期にマッチ集めが趣味になり、オリジナルマッチも作っています。

「大変なこともあったけど、好きだから続けてこれた。お店を開けていると必ず誰かが来てくれる。本当にやってよかった」と笑う谷口さんの言葉には、「好きなことをすればいい」というメッセージが込められているように感じました。





それぞれにとつての
ココロまじわうトコロ

宇和島には、今回紹介した以外にも多くの喫茶店があります。それでも全盛期に比べるとかなり数が減ったそうです。流行りのカフェにはない独特の雰囲気を楽しめる喫茶店は、新しいものが次から次へと溢れる今の時代だからこそ、その魅力が存分に感じられるのだと思います。この機会にぜひ、気になるあの店で、ゆったりと流れる時間を楽しんでみてはいかがでしょうか。

そして喫茶店に限らず、普段何気なく過ごす店、場所、空間にも「自分だけの特別なひととき」があると思います。宇和島で味わうそのひとときこそが、それぞれにとっての「ココロまじわうトコロ」と言えるのではないのでしょうか。今回の特集が、改めてその魅力を見つめなおすきっかけになれば幸いです。